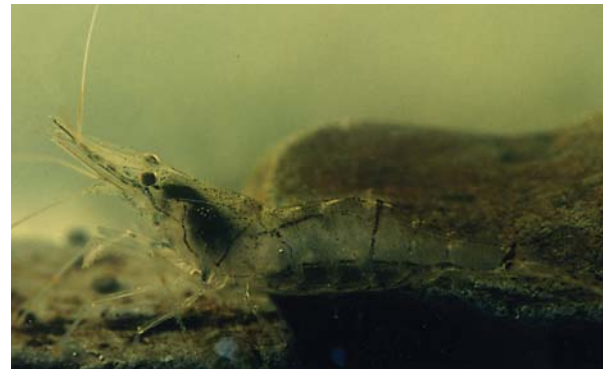


スジエビ

Palaemon paucidens

テナガエビ科



スジエビ

名前の由来

体側に筋があるため。エビの語源は、エビを熱するとエビ（葡萄。エビカズラ等の類。）色になることから、という。

漢字名：筋海老

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類(草原)
鳥類
樹林
タカ

形態的特徴

体長約55mmになる。生時は透明であるが、黒褐色の縞模様がある。腹部の横縞は7本。橋脚の関節部は橙黄色。

額角は頭胸角よりもわずかに短く、上縁に4～8棘（最後の1棘は頭胸甲上）、下縁に1～4棘がある。

第1脚と第2脚にはさみがある。第2脚を前に伸ばすと、はさみの部分が第2触角の鱗片を超える。

類似種：スジエビモドキ。

スジエビモドキの縞模様はやや単純である。額角の上縁に

9～13棘（後方の3棘は頭胸甲上）、下縁に3～4棘がある。体長は約40mmになる。淡水の影響のある沿岸部の浅い場所に生息する。



スジエビ

生息環境・分布

沼、池、湖など。ときに汽水域にも生息し、河口域から上流域にまで分布する。

環境省・国交省水質調査：「少しきたくない水」の指標種。

分布：国外分布は、不明。国内分布は、日本全土。

北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

ゾエア幼生（→興味深い話の項参照）はワムシなどを餌としているが、稚エビはミジンコ、水生植物、魚の死体など

を食べて成長する。成体も雑食性。

大型魚類・鳥類の餌となる。

繁殖生態・寿命

卵内でノープリウス期まで経過し、ゾエア幼生に達して孵化する。（→興味深い話の項参照）

興味深い話

■マス類の餌資源として重要である。また食用にもなり、ゆで乾燥させたものを販売している地方もある。

■本種・クルマエビ・サクラエビあるいはイセエビ・ザリガニなどを含む十脚目は、成体になるまで何段階も変態す

る。幼生段階として、ノープリウス、ゾエア、ミシス期、フィロゾーマ、メガローパなどがある。

■十勝地方のアイヌ語では、エビ類一般が「エホロカテケフ」と呼ばれる。

配慮事項

ゾエア幼生（→興味深い話の項参照）には淵やよどみのような環境が必要である。稚エビの隠れ場所として、水生植

物などが繁茂している場所が必要である。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
確認できる時期					■								

参考文献

「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター 1996

「増補 動物系統分類の基礎」内田亨 北隆館 1988 (17版)

「北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書3 アイ

ヌ語 十勝方言の基礎語彙集 - 本別町・沢井トメノのアイヌ語

- 澤井春美 (編・著)、北海道立アイヌ民族文化研究センター

2006